

連合獣医学研究科

I 研究水準	研究 7-2
II 質の向上度	研究 7-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成 19 年度の教員一名当たりの平均原著論文数（英文・和文）は、3.0 件、平均著書数（英文・和文）は 0.6 件ある。研究資金の獲得状況については、平成 19 年度の科学研究費補助金の採択数（採択金額）は 43 件（1 億 1,236 万円）である。その他の競争的外部資金は 1 億 5,911 万円、共同研究は 2,796 万円、受託研究は 9,760 万円、寄附金は 3,759 万円である。21 世紀 COE プログラム「野生動物の生態と病態から見た環境評価」は B 評価を得た。また、学会賞等の受賞は、教員・学生が各賞を受賞し、国際学会賞も見られることなどは、優れた成果である。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成 20 年度及び平成 21 年度に係る現況を分析した結果、平成 16～19 年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第 1 期中期目標期間における判定として確定する。

2. 研究成果の状況

平成 16～19 年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、実績は大きく、卓越した研究として、病態獣医学分野では、M2 と M3 ムスカリン受容体サブタイプの陽イオンチャンネル活性化機構の研究や応用獣医学分野におけるブドウ球菌エンテロトキシン（SEs）の SE 遺伝子の多様性と機能に関する研究、天然痘ワクチン株 LC16m8 株の全ゲノム構造の解明が挙げられる。

また、過去4年間で国内学会賞13件及び国際学会賞2件を受賞していることなどは、優れた成果である。

以上の点について、連合獣医学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、連合獣医学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間における判定として確定する。

II 質の向上度

1. 質の向上度

平成16～19年度に係る現況分析結果は、以下のとおりであった。

[判定]

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

[判断理由]

「大きく改善、向上している」と判断された事例が1件、「高い質（水準）を維持している」と判断された事例が1件であった。

上記について、平成20年度及び平成21年度に係る現況を分析した結果、平成16～19年度の評価結果（判定）を変えうるような顕著な変化が認められないことから、判定を第1期中期目標期間終了時における判定として確定する。